

中核市サミット松山宣言 2021

中核市は、平成8年に12市が移行して以来、地域の中核都市として、地方分権の推進と地域の発展に大きな役割を果たしてきました。

コロナ禍を機に、デジタルトランスフォーメーション(DX)をはじめ、新しい時代に向けた変革の動きが加速する中、地方では、少子高齢化・人口減少問題や自然災害、気候変動への対応など中長期にわたる重要課題も抱えています。

こうした中、地域の核となる中核市は、新たな時代の流れを力にしながら、将来にわたって持続可能な形で、地域の発展をけん引していくことが求められています。

そこで、本サミットでは、「力強く、持続可能な中核市へ ～未来を切り拓く新時代のまちづくり～」をテーマに、「デジタルを原動力とした『力強い』まちづくり」と「多様な連携による『持続可能な』まちづくり」について議論を行い、次のとおり、中核市62市が連携して取り組むこととしました。

- 1 コロナ禍や科学技術の急速な進展など、様々な脅威や変化にもしなやかに対応し、新たな価値や活力を生み出せるよう、中核市は、誰もが安心や豊かさを実感し、地域の個性や魅力も高められる真のDXを追求しながら、地域の先頭に立って、デジタルを原動力とした力強いまちづくりを推進します。
- 2 コロナ禍で人とのつながりや交流が不足する中でも、地域の課題やニーズに応じた新たな連携や関係を創出できるよう、中核市は、連携の輪を広げるコーディネーターとして様々な主体をつなぐとともに、互いの特色を高め、支え合いながら、多様な連携による持続可能なまちづくりを推進します。

中核市は、制度創設から四半世紀を経て62市まで拡大し、その人口は約2,295万人となるなど、我が国での存在感の高まりとともに、求められる役割も大きくなっています。

私たち中核市は、共通の役割を担う仲間として、互いに連携協力し、環境、社会、経済など様々な分野で、デジタルとリアルのバランスのとれた、力強く、持続可能なまちづくりを推進することで、日本の明るい未来を切り拓いていくことを、ここに宣言します。

令和3年11月11日
中核市市長一同